日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043（222）7207番
98.12.24 No. 4897

動労総連合第13回定期大会開催

（12/19～20 千葉市・なのはな荘）

動労総連合は、一二月一九日～二〇日の両日、千葉市・なのはな荘において、第一三回定期大会を開催し、新安保ガイドラインに基づく戦争国家体制づくりと対決し、「五・二八反動判決」攻撃をはねかえし、正念場中の正念場を迎えた国鉄闘争に勝利する方針を確立した。

総連合の拡大が勝利に不可欠

―中野委員長あいさつ―

大会第一日目は、国分執行委員（水戸）の開会のことばで始まり、議長に繁沢代議員（千葉）を選出して議事が進められた。

冒頭、中野委員長は、「九八年は、労働運動の階級的団結をめぐる敵との攻防戦だった。九九年の今年、動労総連合が大きく組織拡大することが、国鉄闘争に勝利していく不可欠の課題だ」とあいさつを行なった。

来賓として、前委員長の水野勝浦市議からは、「動労総連合結成から一二年が経過したが、これまで切り拓いてきた地平は大きい。労働者・民衆を食わせていけない資本主義が強行突破をしかけているのが今の状況だ。来年の統一地方選に勝利し、動労総連合の運動と連動しながら闘う」と決意が述べられた。

その後、経過報告、九七年度決算報告、九八年度運動方針案が提起され、第一日目の議事を終了した。

第二日目は、九八年度予算案の提起が行なわれた後、質疑応答に入った。

活発な意見続出

【質疑で出た主な意見】

■広島の可部線の一部が廃止されることに反対してビラ・パンフを配布してきた。九九春闘に向け地域の労組に反対を訴えていく（西日本）

■九月の台風災害で起電停止が起こったが、会社は災害や事故の処置は行なうが、根本を改めないためカヤの外に置かれている（千葉）

■事故などに対して社長が謝罪するような会社になってしまったことを会社自 が自覚すべきであり、動労総連合がそこをさらに追及すべきだ（千葉）

■貨物に対する賃金格差の問題は我慢の限界にきている。動労総連合としても様々な取り組みをしてもらいたい（千葉）

■予科生の登用を求め労働委員会闘争を二年間闘い、会社側を追い詰めてきたが来春に結審になるため、勝利めざしてさらに頑張りたい（水戸）

■指導操縦者は全て東労組になっているが、ベテランがいないため三年くらいの若手に見習いを付けるなど危険な状況になっている。全ての根源が結託体制にある（水戸）

■構内運転で、ATS―Pを一日に八〇回解放しないと仕事にならない状況で、毎日「信号冒進」の訓練をやっているような危険な状況だ（高崎）

■無人駅の委託に伴い、そこに配置されていた仲間三名が異動になったが、駅でのたらい回しを許さず、運転職場（検修）に戻すことができた。士職への復帰・登用に向けた一歩の前進だと考えている。また、駅では東労組が殆ど活動できていない。組織拡大のチャンスだ（千葉）

■百万人署名が目標を突破した。世界平和を願う広島の地からさらに闘いを広げたい（西日本）

■金沢列車区で区長が業務遂行に全力を尽くすための「決意表明」を強要している（西日本）

■昇進制度の撤廃に向けて総連合で交渉を強化してもらいたい（水戸）

役職名	氏名	年	出身	職名
執行委員長	中野 洋	58	千葉	運転士
副 〃	平岡 誠	50	西日本	〃
〃	国分 勝之	37	水戸	〃
書記長	布施 宇一	56	千葉	〃
執行委員	和田山 繁	48	高崎	〃
〃	石井 真一	38	水戸	営・指
〃	小川 正哉	41	西日本	運転士
〃	田中 康宏	42	千葉	車両
〃	川崎 昌浩	40	千葉	〃
会計監査員	高石 正博	52	千葉	運転士
〃	天田 博	43	高崎	〃
〃	外岡 弘	37	水戸	車両

一〇〇％でスト権確立

質疑終了後、九八年度運動方針案を採択し、スト権批准投票が行なわれ、一〇〇％で向う一年間のスト権が確立された。

九八年度役員の発表に続き大会宣言が発表され、「全国の闘う仲間の最先頭に立って、全力で闘いぬく」ことを高らかに宣言し、平岡副委員長（西日本）の閉会のあいさつ、中野委員長の団結ガンバロー三唱で第一三回定期大会は終了した。